

JRひがし労仙台 業務部情報

2019年12月30日

NO. 041

JR東労働組合
仙台地本業務部
発行責任者：横山裕介

2020年3月ダイヤ改正等について提案される！②

議論内容

組 合：常磐線の開業は特定避難区域を政府が解除する日か。

会 社：その日もらんで発表が出来た上で再開となる。

組 合：若松での減車はアクセスに回す影響とかなのか。

会 社：車両をどこで生み出すかという部分で、お客さまの乗降人数を確認した上で磐越西線の方から車両を抜いたと。本線等から抜くことが出来なかったため、乗降を見た上で磐西から抜いた。減車したことで乗れなくてはならない。どちらかと言うと郡山～若松間をずっと乗車されるという事は認識しているが、通年乗り切れないことはなくて、繁忙期等は増結手配ということで仙台車両センターから回送かけて増結する予定はあるので、通常期以外は何とかやっていただけるかなと思う。

組 合：120やGVのハンドル訓練の予定は？4両から3両になることで、地上子は。

会 社：GVは終わっていて、120を現行やっているところ。磐越西線の気動車区間について、郡山から110とGVという風な形になる。もし不具合が出るのであれば、設備の移設等含めて出来るかできないかもあるので、40よりは短いと言われてるものの、車上子とどのくらい違うか確認する。

組 合：陸羽西線の余目～酒田間の一部運転区間見直し理由は何か。

会 社：輸送力の見直しということで、余目～酒田間に限らず羽越線自体がそもそも乖離率が非常に高い所で、列車本数が乗降されるお客さまに対して多い。あまりにも多いということで、新潟支社の施策になってしまうが、新潟支社の区間を運休するのだがその前後の223Dや222Dで155Dと156Dの接続は確保していく。

組 合：陸羽東線の最終列車の時間が20分繰り上がるのは。

会 社：1447から732Dに乗り換えるお客さまはほぼいないと新庄駅から聞いている。それよりも、8000番台の列車が無くなったことによって、時間が開いてしまった。1時間以上待っている高校生がいると、待合室にたまっているということで、早く帰してあげるといって20分程度繰り上げた。下りの731Dの方も最上で交換のため、若干上がるが小牛田方面からくる下り列車の接続は確保した。

組 合：標準数はマイナスになるのか。

会 社：郡山運輸区が-2、福島総合運輸区が-1、仙台運輸区が-1、宮城野運輸区が-1、小牛田運輸区が-1、仙台車両センターが-2となっている。

組 合：宮城野はポスを持たないということか。

会 社：仙石線は売り上げが非常に少なく、仙石東北ラインに乗務する車掌にはポスの携帯はするが、仙石線のみの方には持たせない。1組、2組どちらも仙石東北ラインを乗るので、技術力低下などの心配はないと思う。理由は設備維持に結構お金がかかる部分と、売り上げが少ないということ。どうしてもスイカエリアは売り上げが少なくなってしまうということもある。

組 合：みのりは廃車の方向か。その筋に110は入れるのか。

会 社：ご利用されるお客さまが多かったので臨時列車も検討はしていく。車が土日、休日生み出せるようであれば、一応考えてなくはない。

今後、職場ごとの問題点を吸い上げ、申し入れを行っていきます。議論の詳細や疑問点や問題点がありましたら、ひがし労役員にご連絡ください。